

# 令和7年度 第1回 大野市地下水対策審議会の概要

とき 令和7年11月7日（金）

午後1時30分～3時

ところ 大野市役所 大会議室

## 1. 開会

- ・会長あいさつ
- ・審議会の趣旨及びスケジュール

## 2. 議事

(報告事項)

- ・「令和6年度大野市地下水年度報告書」について

【事務局から令和6年度大野市地下水年度報告書について説明、質疑応答なし】

- ・大野市水循環基本計画の改訂について

【事務局から資料1・2に基づき、大野市水循環基本計画の改訂について説明後、質疑応答】

○委員：農地の貯留・涵養機能の維持・向上の効果が期待される田んぼダムの説明について、「水田湛水面積の拡充を検討」とあるが、農業関連の定量評価項目では令和12年度 水田湛水面積の目標値を現状維持としているため整合性が取れなくなるのではないか。

⇒事務局：水田湛水面積の拡充については、今後、さまざまな財源や制度を活用し、可能な限り水田湛水面積を拡大していきたいと考えている。ただし、現時点では具体的にどの地域で、どのような方法で進めるかについては未定であるため、定量評価は、継続して維持する目標としている。

○委員：基本方針1 流域マネジメントの推進における水資源の利用の中で農業用水の環境用水利用とあるがどのような利用方法を考えているのか。

⇒事務局：現在、水田湛水や冬期の市街地の流雪溝に流す水として農業用水を利用している。さらに、その他の用途への活用についても検討を進めるという趣旨である。

○委員：水文化関連の定量評価項目について、本願清水におけるイトヨの営巣数を評価項目としているが、生息数を目標値とした方が市民に伝わりやすいのではないか。

⇒事務局：生息数は観察窓からの確認やイトヨの状況から推測しているものであり、全体数を正確に数えることは困難である。このため、生息状況の指標として営巣数を用いることにした。イトヨが健全に生息していると判断できる基準として、営巣数が30個～200個であること、と森館長より伺っている。この助言をもとに、評価項目を営巣数とし、月平均営巣数の年間累計個数を100個以上とすることを目標とした。イトヨは巣を作る習性を持つため、巣の有無を確認することが生息状況の把握に有

効であると考えている。

○委員：防災関連の定量評価項目について、上水道管（基幹管路）の耐震化率について、令和6年度から令和12年度にかけての54.7%から59.9%に上昇させるという目標は、耐震化率の向上を加速させることか。すなわち、現在進めている耐震化を、よりスピード感を持って進めていくということか。

⇒事務局：幹線を基本として耐震化を進めており、国の補助を受けながら現状のペースを維持していく方針である。したがって、ペースを上げるという意味ではない。

○委員：業界では、人員不足が課題となっているため、人材育成も含めて取り組んでいきたい。

#### (協議事項)

##### ・地下水の水質調査について

###### 【事務局から資料3に基づき、地下水の水質調査について説明後、質疑応答】

○委員：PFOSおよびPFOAについて、大野市でこれらが検出された場合、どのような要因が考えられるのか。また、検出される可能性について、現時点で想定されているのか。

⇒事務局：全国の汚染事例を見ると、工場や米軍基地などからの汚染が確認されている。さらに、不適切な廃棄物の処分による検出事例も報告されている。水道事業者がPFOSおよびPFOAを除去するために活性炭処理を行ったものの、その活性炭の廃棄方法が不適切で、山中に放置された。この活性炭に吸着された成分が土壤に浸透し、地下水を汚染したというケースである。よって、可能性としては低いものの、不法投棄等による汚染が想定される。

##### ・地下水水質検査の今後の取組み方針・内容について採決結果

- 出席委員全会一致により、当該事項を決定した。

#### 3. その他

##### ・次回の開催について

⇒事務局：次回の審議会の開催は年度末を予定している。

#### 4. 閉会

##### ・副会長あいさつ